



2015.2 No.8

産業医大通信

U O E H

産業医科大学通信

University of Occupational and
Environmental Health, Japan

学校法人 産業医科大学 広報企画室
〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

TEL 093-603-1611 (代表)

<http://www.uoeh-u.ac.jp/>

2015年2月20日発行 (隔月20日発行)

第2巻第6号 通巻第8号

◆最近の肝疾患の現状

◆歯周病と健康 ~全身への影響、病気との関わり~



Contents

◆最近の肝疾患の現状

◆歯周病と健康
~全身への影響、病気との関わり~

掲載記事等の紹介

(11/6 日本経済新聞)

(11/13 日本経済新聞)

(1/20 毎日新聞)

報道機関で紹介された

産業医科大学 (H26.10/25~H27.2/4)



産業医科大学
モバイルサイト
こちらから!

<http://www.uoeh-u.ac.jp/>



大学のある北九州の風景(八幡西区 洞海湾からの工場夜景)

最近の肝疾患の現状

第3内科学 教授 原田 大

肝臓の病気にも非常に多くの病態があります。急性に肝障害を起こす病態と慢性に肝障害が続く病態など多彩です。今回は、慢性に肝臓の障害を来す病態について記させていただきます。慢性に肝臓に異常を来す疾患だけでも多くのものがあります。また注意が必要なことは、肝機能障害があってもそれがすべて肝臓が原因とは限りません。例えば内分泌の疾患や筋疾患、感染症等でも肝機能に障害を来すことがあります。慢性の肝臓病で最も問題となるのは病気の治療を的確にしないと最終的に肝不全という肝臓の機能不全になったり、肝癌が出来てしまうことです。また、肝臓は沈黙の臓器と言われるように肝障害があっても症状が出にくいことが問題です。そのため血液検査を受けることが重要です。

慢性の肝疾患での最も重要な問題は肝癌になってしまうことです。それを防ぐこと、またそうなっても早期に発見して的確な肝癌の治療をすることが我々肝臓専門医の務めと私は考えています。日本で肝癌の最も多い原因はC型肝炎ウイルス感染症です。このウイルスに感染していてもそのことを知らない方が多くおられます。そのため繰り返しになりますが、検査を受けることが重要です。このウイルスに感染すると約7割の方がウイルスを身体から排除出来ずに慢性肝炎になってしまいます。そうなると多くの場合20～30年の経過で肝硬変から肝癌が出来ます。インターフェロンを中心とした治療によりウイルスを体から排除することが可能ですが、すべての人にインターフェロンが効果を発揮出来るわけではなく、また副作用もあるため治療が続行出来ない患者様もおられます。ただ近年インターフェロン治療の

助けになる良い抗ウイルス剤が出て治療成績は大変改善しています。また、様々な要因でどうしてもインターフェロン治療が行えない患者様にも、インターフェロンを用いない治療も可能となり飲み薬だけでウイルスを身体から排除できるようになりました。現在使用可能な薬で約8割の患者様においてウイルス排除が可能となっています。さらに強力な薬の開発も進んでいますので、今後は非常に高い確率でC型肝炎ウイルスを体から排除する治療が可能となります。ただこのような薬を使うと薬の効かない遺伝子変異を起こしたウイルスが肝臓に残ることがあるため、どの治療法が最も患者様に良いかを的確に判断出来る肝臓専門医に相談することが重要です。また注意が必要なことはウイルスがいなくなっても肝臓が完全に正常に戻っているわけではないことです。ウイルスが排除された10年以上後に肝癌が出来る患者様もおられます(図1)。そのため、治療後も必ず腹部超音波検査などを含めた診察を受ける必要があります。

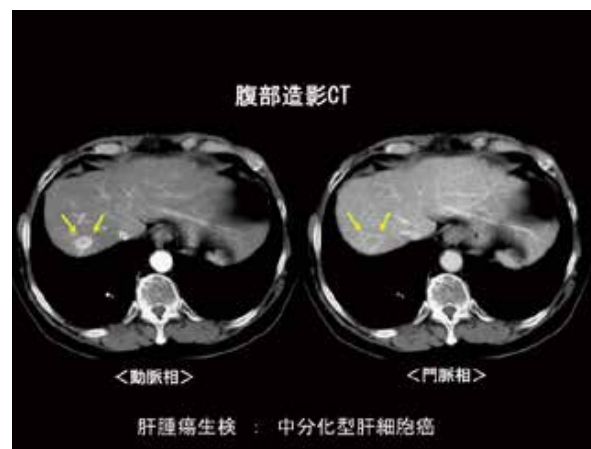


図1 70歳の男性の腹部造影CT所見。C型肝炎にてインターフェロンによる治療を行いウイルス排除が可能であったが、18年後に肝癌が発生した。



次に肝臓の原因として問題になるものがB型肝炎ウイルス感染症です。健康な大人がこのウイルスに感染した場合は一過性で、肝炎は落ち着くことが多いです。ただし、少ないながらも劇症肝炎という重篤な肝障害を引き起こすことがあります。その時は肝移植を必要とすることもあります。このウイルスで慢性肝炎になっている患者様の多くは、お母様からウイルスをもらっているか子供のころに感染した方です。B型肝炎の問題点は肝炎が進行しなくても肝臓が発生することがあることです。非常に若く肝炎の落ち着いた患者様にも肝臓が出来ることがあります(図2)。そのためB型肝炎ウイルス保有者は肝炎が落ち着いていても、超音波検査を含めた経過観察が必要です。また大人でB型肝炎ウイルスに感染しても症状が出ずに、感染したことを知らない方も多くおられます。成人でB型肝炎ウイルスに感染していわゆる肝炎は治った状態の方の肝臓にも、B型肝炎ウイルスの遺伝子は残っています。そのためこのような方の免疫状態がおかしくなった場合には肝炎が再燃すること

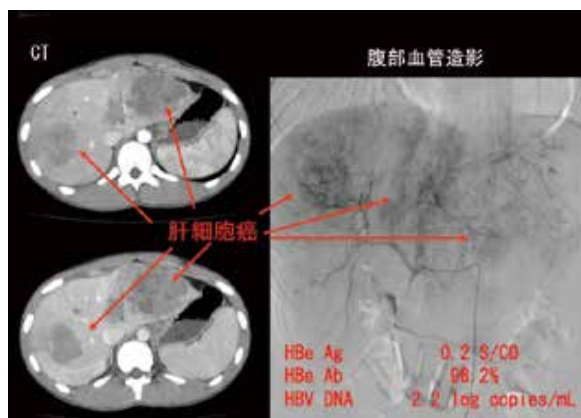


図2 15歳の男性の腹部造影CT所見と腹部血管造影所見。肝全体に肝臓を認める。B型肝炎ウイルスキャリアー(保有者)であったが、近医より肝機能は正常で心配ないと言われていた。

があります。時に肝不全におちいることもあります。そのため何らかの病気で免疫を調節するような薬や抗癌剤を使用する場合は十分な注意が必要です。血液の病気、自己免疫疾患や癌の治療が影響することがあります。

脂肪肝で特にアルコールと関係ない脂肪肝は非アルコール性脂肪性肝疾患と呼ばれます。以前はこのような状態は特に心配する病態ではなかったと考えられていましたが、現在はこのような患者様の中にも非アルコール性脂肪性肝炎と呼ばれる炎症の強い状態となり肝硬変から肝臓が出来ることが分かっています。最近はこのような肝炎ウイルスの関与しない肝臓が増加しています。肥満や糖尿病の患者様の中にもこのような状態の方がおられ、そのような方は肝臓専門医を受診し、定期的な検査が望まれます。

また、免疫の異常により本来自分を助けるための免疫機構が自分の肝臓を攻撃してしまう病気があります。代表的なものは、自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変や原発性硬化性胆管炎ですが、これらの病気の患者様は一般の医師では見逃されていることもあり注意が必要です。

これら以外にも肝臓の原因となる疾患はたくさんあります。例えばウイルソン病という病気がありますが、この病気は銅の肝細胞での代謝異常で起こる病気ですが、肝臓以外に多彩な神経症状や全身の臓器の障害を来します。正しく診断されずに、精神病と診断されるとその方の人生は台無しになってしまいます。原因のはっきりしない肝臓の場合は、是非肝臓専門医を受診される事をお勧めします。

歯周病と健康 ～全身への影響、病気との関わり～

歯科・口腔外科 大矢 亮一

歯周病の基礎知識

歯周病は歯周組織(歯肉や歯を支える骨)が歯垢中の細菌感染により生じた炎症で破壊される疾患です。多くの成人(7、8割)が罹患しており、日本人の歯の喪失原因の第1位を占めています。歯垢中の感染細菌は嫌気性菌が多く、歯周病関連細菌と呼ばれています(図1)。主な症状は歯肉の発赤、出血や腫脹に始まり、排膿や口臭に加え、歯牙の動揺から最後は歯の自然脱落を来す経過をとります。診断は歯周ポケット(歯の周りの溝)の深さを測定することが必須で、歯ぐきを診るだけでは診断できない疾患です。健康な歯牙と歯周組織の例と活発に炎症が生じている歯周組織を写真1、2に示していますので、両者の違いを良くご覧になって下さい。治療は細菌感染の原因である歯垢の除去が基本ですが、さらに大事なのは毎日の歯磨き(セルフ プラークコントロール)と定期的な歯科受診によるプロフェッショナル プラークコントロールを併用し、歯垢の再形成と歯牙への再付着を防ぐことです。このように歯周病は予防可能な疾患ですので、産業医学にとっても大変重要な疾患であると言えます。

歯周病と健康、全身への影響

健康長寿を狙う際、残っている歯の数が大変重要です。具体的には80歳で20本以上(はちまるにいま

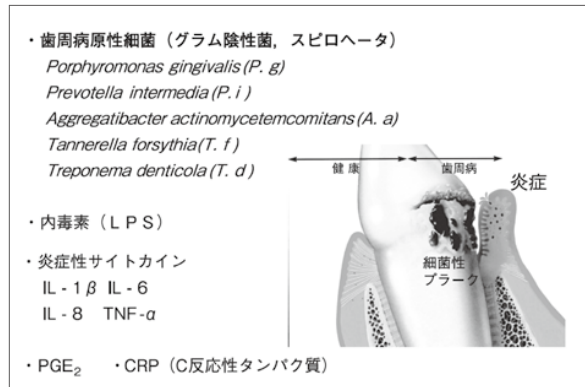


図1 歯周組織へ侵入する歯周病原性細菌と炎症による産生物(る)の歯牙を有しているお年寄りの日常生活動作は20本未満の方よりも明らかに良好であることが示されています。皆様もプラークコントロールにより歯をできるだけ失わず、健康寿命を享受できる自立したお年寄りを目指しましょう。

口腔内を清潔に保つことは別な利点もあります。がん等の治療は患者さんの免疫抵抗力を低下させます。免疫能低下は慢性炎症である歯周炎の急性転化を通して、全身他部位あるいは他臓器障害を引き起こし、いわゆる合併症の発現につながる事が明らかになっています。歯周病が全身に及ぼす影響の機序は歯周組織における微生物の感染と慢性炎症持続の存在が大きく、病変部位の歯周病原性細菌、炎症メディエーター(炎症性サイトカイン、プロスタグランジンE2)などが歯肉の毛細血管から血流を介し



写真1 健康な歯周組織と歯牙を有する症例



写真2 病的な歯周組織と咬合を呈する症例



て全身に供給されることが挙げられています(図1)。

口腔内の保清(口腔ケア)は合併症の発現を抑制し、がん治療を円滑に遂行するための重要な支持手段であることが示されています。がん患者さんの治療開始前に口腔内を点検、評価するために、歯科受診を勧めて頂きたいと思います。保険診療点数に「術前口腔機能管理」が新設され、消化器領域、呼吸器領域および頭頸部領域の悪性腫瘍手術や心臓血管外科手術および骨髄移植手術が算定対象となっております。また、手術に限らず、悪性腫瘍の放射線治療や化学療法を実施する場合においても算定可能ですので該当症例を担当される院内各科より積極的な紹介をお願いいたします。

歯周病と病気の関わり

1990年代後半頃より歯周病患者では、心臓血管疾患(冠動脈疾患や心内膜炎)、脳梗塞や呼吸器疾患(誤嚥性肺炎や慢性閉塞性肺疾患など)の発症頻度および早産(37週未満の出産)や低体重児出産(2,500g未満の出産)率が高く、糖尿病患者では血糖値コントロールが困難となる傾向にあることが報告されるようになりました。近年では、歯周病と癌、関節リウマチ、肥満、バージャー病やストレスなどとの関連も報告され、口腔内疾患と全身疾患の関連がより密接なものであることが明らかとなり、歯周医学(periodontal medicine)の分野が登場しました。これは、歯周病の予防、治療を考える際に口腔内局所の問題だけでなく、より幅広く患者の基礎疾患や生活習慣にも気を配る必要があること、そして歯周病予防と治療は様々な疾患のリスクを軽減できることを意味しています。

前述した歯周医学では、多くの疾患と歯周病との関連を探っています。現在では過去には思いもよらなかった疾患との関連まで、話題に上がるようになり

ました。今後はさらに多くの疾患との関連が研究され、また、そうした疾患を有する患者の歯周治療についての議論がなされることになると思われます。

メタボリックシンドロームは最終的には死に至る重篤な病に繋がるため、その過程をメタボリックドミノと称することがあります。たとえば、上流では肥満1枚のドミノであったものが、やがて大きな流れとなり我々の体を襲うようになります。歯周病はドミノの単なる一枚ではなく、倒れ始めたドミノをさらなる風圧で引き倒すことに力を貸す重大な疾患であると考えられます(図2)。症状の重篤度に違いはあれ、成人の8割が罹患しているこの疾患に対する対策をさらに強化することが、国民の健康寿命の延伸に繋がることは明らかです。そのためには、まず歯周病罹患の危険性を多くの方々に認知してもらう必要があると思います。

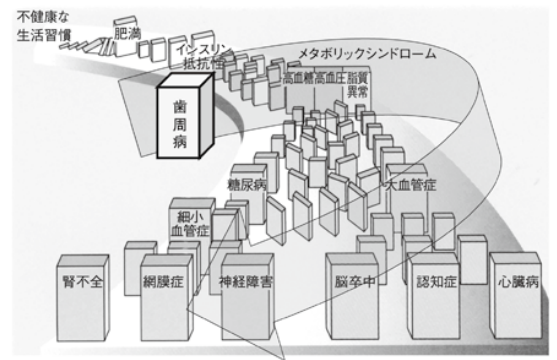


図2 歯周病はメタボリックドミノに風圧をかけるような存在

参考文献

日本歯科医師会雑誌 67巻(5号)398-408頁, 2014.

平成26年11月6日(木) 日本経済新聞 夕刊 9面(生活面)

医師の目③
若年層のうつ 企業と一体で対策

精神医学 中村 純

平成26年11月13日(木) 日本経済新聞 夕刊 9面(生活面)

医師の目④
うつ予防、ストレスチェックで

精神医学 中村 純

(記事掲載許諾期限切れのため、記事を削除しています。)

平成27年1月20日(火) 毎日新聞 朝刊 26面(地域面)

医療の疑問にやさしく答える患者塾 血圧が高くても大丈夫ですか？

第2内科学	尾辻 豊
医学概論	藤野 昭宏
第2外科学	永田 好香
産科婦人科学	稲垣 博英

(記事掲載許諾期限切れのため、記事を削除しています。)

報道機関で紹介された産業医科大学

本学ホームページにも最新情報を掲載しています。「産業医大 報道」で検索して下さい。(TOP→報道機関への出演・掲載)

〈平成26年10月25日(土)～平成27年2月4日(水)〉 (広告、開催案内等の記事除く)

日 時	媒体名	内 容	所 属	氏 名			
10月25日(土)	秋 田 魁 新 聞	岐路から未来へ： アスベスト 日本の経験知伝える	環境疫学	高橋 謙			
	デ ー リ ー 東 北						
	徳 島 新 聞						
	大 分 合 同 新 聞						
11月 1日(土)	中 國 新 聞						
11月 4日(火)	福 島 民 報						
	神 奈 川 新 聞						
11月 5日(水)	愛 媛 新 聞						
11月10日(月)	熊 本 日 日 新 聞						
11月16日(日)	山 陽 新 聞						
11月17日(月)	福 井 新 聞						
	山 梨 日 日 新 聞						
11月23日(日)	信 濃 毎 日 新 聞						
11月25日(火)	神 戸 新 聞						
12月 5日(金)	山 口 新 聞				がん研究助成金優秀賞対象者として 県すこやか健康事業団	放射線健康医学	香崎 正宙
12月21日(日)	西 日 本 新 聞						
12月 7日(日)	読 売 新 聞	病院の実力(九州編) 大腸がん	産業医科大学病院				
12月 8日(月)	F M 福 岡 10:55～11:00	「あきらめない 医療を目指して」	脳卒中	脳神経外科	西澤 茂		
12月15日(月)			前立腺がん	泌尿器科	藤本 直浩		
12月22日(月)			心臓弁膜症	循環器内科・腎臓内科	尾辻 豊		
12月29日(月)			高齢者の骨折	整形外科	酒井 昭典		
1月 5日(月)			白内障	眼科	近藤 寛之		
1月12日(月)			乳がんにおける乳房再建	形成外科	安田 浩		
1月19日(月)			肝臓疾患	消化器内科・肝胆膵内科	原田 大		
1月26日(月)			骨盤臓器脱	産婦人科(若松病院)	吉村 和晃		
12月 9日(火)			毎 日 新 聞	患者塾「未来のことを知っていいですか」	第2内科学 医学概論 第2外科学 産科婦人科学	尾辻 豊 藤野 昭宏	
1月20日(火)	患者塾「血圧が高くても大丈夫ですか？」	永田 好香 稲垣 博英					
12月12日(金)	読 売 新 聞	日本 喫煙しやすい場所多い	健康開発科学	大和 浩			
12月29日号	PRESIDENT	病院のウラ側 2030年(医療格差)分析、 地域シミュレーション記事内でのコメント	公衆衛生学	松田 晋哉			
1月10日(土)	集英社 季刊誌 My Age(winter号)	「腰痛の原因、もしかしたら股関節かも」の 記事の中での紹介	整形外科(若松病院)	内田 宗志			
1月11日(日)	読 売 新 聞	病院の実力(九州編) 心臓リハビリテーション	若松病院				
1月13日(火)	週刊朝日(1月23日号)	新 名医の最新治療 「関節リウマチ」	第1内科学	田中 良哉			
1月19日(月)	AERA(1月26日号)	大学力2015 医学部徹底比較：私大医学部 学費と偏差値	産業医科大学				
1月22日(木) 18:15～	F B S 「NEWS 5ちゃん」	インフルエンザの予防等について	感染制御部	鈴木 克典			
1月29日(木)	毎 日 新 聞	絵画の会である「燈台の会」が大学病院内に絵 画を提供し飾っていることについての紹介	産業医科大学病院				
2月 1日(日) 9:35～ 9:55	cross fm「The Communication Radio」	産業医大の紹介 「大学 全般」	学長	東 敏昭			
2月 4日(水) 20:00～20:43	N H K 総 合 「ためしてガッテン」	クラっとしたら・・・そこに潜む病気解明 SP?	不整脈先端治療学	安部 治彦			

本誌にかかるご意見等につきましては、uoehnews@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp までお寄せください。
(本誌の記事・写真などの無断転載を禁じます。)

